

2024年11月28日（木）  
渋谷スクランブルスクエア株式会社

SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.8 ヘラルボニーによる企画展  
「PARADISCAPE」異彩を放つ作家たちが描くせかい  
2025年1月16日（木）から3月31日（月）まで開催

「渋谷スクランブルスクエア」の14階・45階・46階・屋上に位置する展望施設「SHIBUYA SKY」（以下、本施設）は、「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」と題して、本施設のご来場者に、渋谷最高峰の景色を眺めるだけにとどまらず、まだ見ぬ世界への興味を抱かせ、想像力を育てる体験を提供することを目的に、本格的な企画展を定期的に開催しております。

8回目となる今回は、「異彩を、放て。」をミッションに掲げ異彩作家とともに、新たな文化の創造を目指す「ヘラルボニー」による企画展『「PARADISCAPE」異彩を放つ作家たちが描くせかい』（以下、本展）を開催することが決定しました。

国内外の主に知的障害のある作家の描く2,000点以上のアートデータからこの世界の在り方を独自の視点で描いた原画約50点を厳選し、書き下ろし作品とあわせて屋内展望回廊 SKY GALLERY に展示します。開催期間は、2025年1月16日（木）から3月31日（月）までとなります。



▲キービジュアル

## 「PARADISCAPE」異彩を放つ作家たちが描くせかい 展示コンセプト

再開発で移ろいゆく都市の上空に異彩作家が描く生物たちが力強く躍動する。

そこには、強烈な個性が描く生命の根源的な輝きがある。

いのちを捉えた多様な色彩や繰り返される形は、  
都市の水平線と重なり、色めくビルボード、行き交う情報と共鳴し、  
生命のリズムが眼下に広がる都市の情景と呼応していく。

都市の上空で描かれるのは全ての生命が同様に輝く自由な世界。

共生と多様性が織りなす明日のパラダイス。

ヘラルボニーが示す「ふつうじゃない」ことの新たな可能性は、  
違いそのものにこそ魅力があるということを伝え、  
私たちの視野を広げ、見えない壁を取り除き、  
これからの社会の在り方を見せてくれる。

そう思わせるのは、ここで生まれる「感動」が  
人の心を動かし、社会を形成するからだ。  
社会は今、変わろうとしている。

そんな景色を是非、体感してほしい。

## 開催概要

ヘラルボニーが贈る、異彩を放つ作家たちと SHIBUYA SKY のコラボレーション展示。多様な視点で描かれた生命の輝きが、渋谷上空を彩ります。

本展は異彩作家たちの視点から「生命が輝く世界」を再構築する試みです。ある作家は、動物の「目」に込められた感情に惹かれ、またある作家は「色」や「形」を通じて生命のエネルギーを表現します。彼らが描くのは、日常の中で見逃されがちな生命の瞬間、異なる感覚で捉えた生命そのものの多様な風景です。彼らの視点や感覚を通して、新たな生命の魅力を伝え、訪れるひとびとに「世界」との心の対話を生み出す空間を構成します。ここ「PARADISCAPE」で、都会に息づく生命と圧倒的な景色が織りなす共生の理想郷を体感してください。

また、「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」は、「視点を広げる」を共通テーマに、アーティストが展望装置である本施設を体験したインスピレーションから制作された作品を展開してきました。今回は一部のアーティストに実際に SHIBUYA SKY を体験いただき、生み出された新たな作品も展示いたします。



▲SHIBUYA SKY を視察するアーティストの様子

■企画名称：SKY GALLERY EXHIBITION SERIES vol.8「PARADISCAPE」異彩を放つ作家たちが描くせかい

■開催期間：2025年1月16日（木）から3月31日（月）※休館日：2月18日（火）

■開催場所：SHIBUYA SKY 46階 屋内展望回廊「SKY GALLERY」

■特設サイト：[https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/exhibition\\_heralbony/](https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/exhibition_heralbony/)

■参加方法：

イベント当日のSHIBUYA SKY 入場チケット、もしくは年間パスポートをお持ちの方は、どなたでもご鑑賞いただけます。入場チケットのご購入について、詳しくは下記サイトをご覧ください。

<https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/ticket/>

※SHIBUYA SKY チケットは数に限りがございます。希望日時のチケットが完売の場合は購入いただけません

※4週間先の日付までの入場チケットをご購入いただけます。本展につきましては、12月19日（木）より順次販売開始いたします。

※入場後の滞在時間に制限を設けていませんが、退場後の再入場はできません

## 展示構成

都市の上空で描かれるのは多彩な生命が多様に輝く自由な世界。本展示では3つのテーマに分けて作品を展示します。屋内展望回廊に沿って歩みを進めることで、移り変わる眺めとともに3つのテーマを一連の体験としてお楽しみいただけます。

### 01 アーバンサファリ

渋谷の上空に構成された、都市の人工物と多種多様な生き物が共存することで生まれる超自然的な風景。現代的な都市生活と野生動物の生息地が隣り合わせにあるかのような想像は鑑賞者に新鮮な驚きを与えてくれます。本展示のために、SHIBUYA SKY の展望体験をインスピレーションとして制作された作品も展示しています。

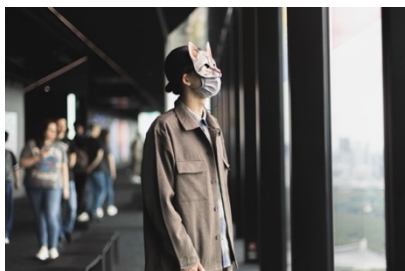
#### ■出展作家

鳥山 シュウ | やまなみ工房

大好きなアニメやゲームキャラクターを模写することから絵を描く楽しみを持った少年期から、彼の世界観は更なる広がりを見せるようになった。細やかで緻密な線の集合体で描かれた動物や風景、妖怪やモンスターのよう生き物が楽し気に生活される街並みなど、彼の頭の中のイメージそのままに絵に映し出されている。絵を描くことで人とつながりが生まれ、夢を実現させるための活力であると、彼の創作への意欲が絶えることはない。本展ではSHIBUYA SKY を体験し、キービジュアルを制作。

## 鳥山 シュウからのコメント

渋谷 46 階から見た景色は特別なものでした。写真とは違う、ずっと遠くの空と街が自分の頭の中で空想とリアルでごちゃまぜになりました。僕の目の前に広がる世界に心が動くのを感じました。今を生きていることや言葉にできない想いを絵に込めました。僕の絵を見て楽しんでもらえると嬉しいです。



▲鳥山 シュウ



▲作品名 ひろがる



▲作品制作の様子

## 小野崎 晶

自閉症であることで幼い頃はさまざまな苦境に直面することもあったが、現在は自宅で営業しているヘアサロンの店頭に立ち、お客さまのシャンプーなどを担当する傍ら休日は精力的に絵を描き続けている。彼女が描く作品は、表情豊かでまるで楽しそうに会話をしているような動物達や、色鮮やかで溢れるほどの生命力を感じさせる草花が画面を一杯に埋め尽くす。描く作品は彼女の心が住む世界の風景であり、同時に現実世界に対する「あなたが笑顔でありますように」という彼女の願いだ。



▲小野崎 晶



▲作品名 わたしのゲルニカ

## 02 群と移動

厳しい自然を生き抜くための群れが形成する美しいシルエットや、動きのリズムは自然界の調和を感じさせます。また、群れを構成するそれぞれの個体にも独特な特徴や行動、そして表情があり、群れの中での役割や関係性が複雑に表れます。時には鳥たちに寛容さや癒しの表情を読み取ることもできるでしょう。眼下に広がる都市と行き来するひとびとの流れを背景として作品を眺めることで、いのちが描き出すパターンの中に私たち自身の姿をも見ることができます。

### ■出展作家

#### 田崎 飛鳥

陸前高田市在住。彼は生まれながらにして、脳性麻痺と知的障害がある。幼いころから絵本や画集に興味を持ち、彫金作家である父、實さんの勧めで絵を描き始めるとその才能は伸びていき、アート展では賞を受賞するまでに。東日本大震災の津波により、自宅、今まで描いてきた約 200 点の絵、親しんできた豊かな自然と、そこに住むひとびと…かけがえのない大切なものを一瞬で失い、あまりの衝撃と悲しみから、ショックで一度は筆を置いてしまったが、父からの言葉で再び筆を取り、壮絶な経験を経て、今まで多くの観る人の心を動かす。



▲田崎 飛鳥



▲作品名 ウミウ

## 03 境界のない世界

世界を自由に往来する、生き物の声に耳をすませてみましょう。大地の多様性と生命力を育む大らかさ。海の神秘的で深淵な世界。そして人間の夢や希望を象徴する存在としての空。豊かな表情の生き物や、多彩な色の組み合わせの風景、またそれらが溶け合う創造性に富んだ作品群は、自然界の驚異と美しさ、そしていのちの輝きそのものを伝えます。

異彩を放つ作家の視点で描かれた新鮮な世界像は日々の生活を営む中で無意識に世界を整理し、境界を引いてしまう私達の意識に語りかけます。

## ■出展作家

### 岩瀬 俊一 | やまなみ工房

ペンを用いて人物や動物など、モチーフが決まると彼独自の視点で余白を余すことなく、紙面全てにゆっくりと描きこんでいく。彼の内向的で真面目な性格が作品にも反映され描く線の一つひとつがとても丁寧で、まるで細かい糸が絡み合っているかのように繊細に描かれる。日常では、ほとんど言葉も発することなく意見を求めても、顔を赤らめながら、か細い声で一言口にする程度しかない彼の作品からは、内に秘めた思い全てが放出され、訴えかける力強さに満ち溢れている。彼もまた自己を表現する術を作品制作に見出した1人であり、これからも彼の世界観は大きく広がっていくだろう。



▲岩瀬 俊一



▲作品名 くじらとサメ

### アートデータにおける著作権表示のお願い：

本文書に掲載されているアート作品の画像データは、すべて著作権者の貴重な作品です。これらの写真を使用する際には、必ず作品タイトルと作家名をご記載ください。

## HERALBONY in SHIBUYA SKY SOUVENIR SHOP

「HERALBONY」のアイテムを SHIBUYA SKY SOUVENIR SHOP で販売予定。

開催期間 | 2025年1月16日(木) ~ 3月31日(月)

フロア | 46F SHIBUYA SKY SOUVENIR SHOP 前

※ご来店は、SHIBUYA SKY 入場チケットの購入が必要となります。



▲イメージ

## 全体監修・キュレーション 黒澤浩美

### 金沢 21 世紀美術館 チーフ・キュレーター / 株式会社ヘラルボニーアドバイザー

SHIBUYA SKY の屋上展望空間「SKY STAGE」は 360 度のパノラマビューが広がり、渋谷駅を中心に放射状に伸びる大きな通りを俯瞰できます。都会の空が狭いなんて間違っていたのだと実感する、開放的なスペース。空が大きく頭上に広がり、地球のどこまでも繋がっていることを実感します。このたび、その屋上の下の回廊に、異彩を放つ作家たちが描く、新しい生態系「PARADISCAPE」を創出。境界のない自由でのびやかな表現に触れて、生きとし生けるものと自然も全てが、ずっと繋がっていることを感じていただければ嬉しく思います。



▲黒澤浩美

### プロフィール：

ボストン大学 (マサチューセッツ州、アメリカ合衆国) 卒業後、水戸芸術館 (茨城)、草月美術館 (東京) を経て 2003 年金沢 21 世紀美術館建設準備室に参加。建築、コミッションワークの企画設置に関わる。2004 年の開館記念展以降、多数の展覧会を企画。「オラファー・エリアソン」「ス・ドホ」「フィオナ・タン」「ジャネット・カーディフ & ジョージ・ビュレス・ミラー」など、国内外で活躍する現代美術作家と作品を紹介。ミュージアム・コレクションの選定や学校連携や幅広い年齢の来館者に向けた教育普及プログラムも企画実施。2011 年 City Net Asia (ソウル、韓国)、2017 年 OpenArt (エレブロ、スウェーデン)、2018 年東アジア文化都市 (金沢) にて総合キュレーターを務める。

## 松田崇弥／松田文登

### 株式会社ヘラルボニー 代表取締役 / Co-CEO

「ハチ公」は、主人である上野英三郎教授の逝去後も変わらず毎日渋谷駅で彼の帰りを待ち続け、その姿は愛と絆の象徴としてひとびとの記憶に刻まれています。その地上の象徴と響き合うかのように、渋谷上空に位置する「SKY GALLERY」に、異彩を放つ作家たちによって描かれた生命の息吹が、力強く躍動します。再開発により絶えず姿を変える渋谷の景色の先にこれからの社会の在り方を想像します。それは生命の普遍的な輝きと存在の根源を鮮やかに映し出す、ヘラルボニーが提案するパラダイス。渋谷上空で、あなたをお待ちしております。



▲松田崇弥／松田文登

プロフィール：

株式会社ヘラルボニー 代表取締役 / Co-CEO 松田崇弥

企画会社オレンジ・アンド・パートナーズ、プランナーを経て独立。双子の松田文登と共にヘラルボニーを設立。ヘラルボニーのクリエイティブを統括。双子の弟。世界を変える 30 歳未満の 30 人「Forbes 30 UNDER JAPAN」受賞。

株式会社ヘラルボニー 代表取締役 / Co-CEO 松田文登

ゼネコン会社で被災地の再建に従事、その後、双子の松田崇弥と共にヘラルボニーを設立。ヘラルボニーの営業を統括。双子の兄。世界を変える 30 歳未満の 30 人「Forbes 30 UNDER JAPAN」受賞。

## HERALBONY について

ヘラルボニーは、「異彩を、放て。」をミッションに掲げ異彩作家とともに、新しい文化をつくるアートエージェンシーです。国内外の主に知的障害のある作家の描く 2,000 点以上のアートデータのライセンスを管理し、さまざまなビジネスへ展開しています。支援ではなく対等なビジネスパートナーとして、作家の意思を尊重しながらプロジェクトを進行し、正当なロイヤリティを支払う仕組みを構築しています。アートを纏い社会に変革をもたらすブランド「HERALBONY」のほか、商品や空間の企画プロデュース、取り組みを正しく届けるクリエイティブ制作や社員研修プログラムなどを通じて企業の DE&I 推進に伴走するアカウント事業、あたらしい"常識"に挑戦する盛岡のアートギャラリー「HERALBONY GALLERY」の運営を行うアート事業など、多角的に事業を展開。さまざまな形で「異彩」を社会に送り届けることで、「障害」のイメージを変え、80 億人の異彩がりのままに生きる社会の実現を目指しています。

コーポレートサイト：<https://www.heralbony.jp>

オンラインストア：<https://store.heralbony.jp/>



HERALBONY

## SKY GALLERY EXHIBITION SERIES について

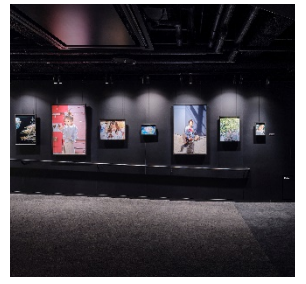
渋谷は文化を生み出す街であり、本施設はそんな街との循環によって、渋谷とともに成長してゆく「知的好奇心を育てる施設」を目指しています。そのためにも、本施設のキーメッセージである『展望せよ。渋谷、世界、自分、未来。』を軸に、渋谷で文化を生み出しているパートナーやアーティストとのコラボレーションを通じ、新たな気づきを誘発するカルチャーコンテンツを企画・実施しています。

なかでも 46 階屋内展望回廊「SKY GALLERY」にて定期的に開催する「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」は、「視点を拡げる」を共通テーマに、アーティストが本施設を体験したインスピレーションから制作されたオリジナル作品を主軸に展開する本格的なエキシビションです。

今後も本施設は、「SKY GALLERY EXHIBITION SERIES」を通じて、渋谷最高峰の景色を眺めるだけにとどまらず、まだ見ぬ世界への興味を抱かせ、想像力を育てる体験を生み出します。

■これまでの SKY GALLERY EXHIBITION SERIES

<p><b>vol.1 EVEREST 都市と極地の高みへ</b></p>	<p><b>vol.2 FOCAL DISTANCE   焦点距離</b></p>
<p>開催期間 2020年6月1日～8月31日</p>	<p>開催期間 2020年11月1日～2021年1月17日</p>
<p>写真家石川直樹氏が自ら登り、撮影したエヴェレストの写真(SKY GALLERYの空間構成に沿って展示。当企画は、本施設の体験設計のベースとなっている通過儀礼や山登りの体験構造にフォーカスを当て、体験の類似性と異なるスケールを持った世界の可能性を“直感的”に示すことで、目に見える景色の先に世界はつながっているという事を示唆しています。</p>	<p>アーティストの岩崎貴宏による、観る者の視点に潜む焦点距離を変化させることに着目した変貌する都市のポートレートの作品を展示。 作家自身が SHIBUYA SKY を体験したインスピレーションから制作されたオリジナル作品を主軸に展開。</p>
	
<p><b>vol.3 Everyone's sky 消えゆく風景への旅 by TRANSIT</b></p>	<p><b>vol.4 DOWN TO TOWN</b></p>
<p>開催期間 2020年6月1日～8月31日</p>	<p>開催期間 2022年5月20日～7月24日</p>
<p>2020年9月にTRANSITから発行された「TRANSIT49号 美しい消えゆく世界への旅」の誌面企画から、“海 (Sea)・森 (Forest)・動物 (Animals)・眺望 (The View)”という4つのエリアに分けて再構成した写真/読み物パネルを&lt;SKY GALLERY&gt;回廊内の壁面4箇所にはりつけ、回遊しながら楽しめる空間展示としています。屋上から360度に広がる景色を体験した後、その先に広がる世界のさまざまな環境問題に目を向けるきっかけをつくります。</p>	<p>「DOWN TO TOWN」は、アートチーム「SIDE CORE」がキュレーションする、匿名アーティストグループ「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD」による個展です。渋谷で一番高所に位置するSHIBUYA SKY 46階「SKY GALLERY」を展示会場とし、「望遠鏡を覗いて鑑賞すること」や「独自の視点で作られた地図を持って街を歩く」という行為を通じて、アーティストのアイデアに触れながら街を散歩(down to town)し、街に対する新しい視点の獲得をうながしました。渋谷という街の中でこそ生まれる特別な体験を提供しました。</p>
	
<p><b>vol.5 目 [mé]</b></p>	<p><b>vol.6 TOKYO GAMES</b></p>
<p>開催期間 2023年1月13日～3月24日</p>	<p>開催期間 2023年5月25日～7月30日</p>
<p>都市の運動から抜け出し「ただ、眺める」。をテーマに、これまで展示空間と観客を含めた状況をつくることで空間を変容させ、現実の不確かさをひとつひとつに体験させてきた現代アートチーム「目 [mé]」の企画展を開催。作家の観点と非日常から世界を眺めることを可能にする SHIBUYA SKY の視座を重ねることで、都市は一つの大きな運動体でありながら、その運動を担う私たちはそれぞれの固有の時を歩んでいるという世界の姿をただ、眺めることを促しました。</p>	<p>写真家・松岡一哲は、身近な被写体や日常を切り取りながら、存在の固定概念や言葉の枠組から取りこぼされる世界の実存をフィルムに焼き付けてきた。 本展では、SHIBUYA SKY の展望空間から望むことのできる東京の数カ所の街で撮り下ろしたポートレート32点を含む総数42点の作品を展示。展望空間では東京の遠景を、展示空間では近景を、と異なる視点・視座から見つめる体験を提供しました。</p>



## vol.7 「Ding-dong, ding-dong ～Bells ringing at the bottom of the valley～」

開催期間 2024年1月23日～3月31日

茨城県水戸市を拠点とする美術家中崎透は、渋谷という街に深く関わりながら独自の人生を歩む、年齢や性別、職業の全く異なる三人のインタビューを実施。決して交わり合う事無かった三つの人生が、中崎の新作を中心とした作品群と共に紡がれていきます。鑑賞者はこの舞台上に散りばめられた断片を通して、ここ SHIBUYA SKY の上空から見下ろす街のイメージとのズレ、自らの今や人生との差異に触れながら、社会といち個人の間にある影響の密接さを感じることでしょう。再開発が続くこの街の輪郭は常に変化していきますが、その輪郭もまた揺さぶられる体験になるかもしれません。



## 「SHIBUYA SKY」について

### ■SHIBUYA SKY

本施設は、14階～45階の移行空間「SKY GATE」、日本最大級の屋上展望空間「SKY STAGE」、46階の屋内展望回廊「SKY GALLERY」の3つのゾーンで構成されております。渋谷最高峰の地上229mから広がる360度の景色を眺めるにとどまらず、一連の体験を通じて知的好奇心を刺激し、想像力を育む展望装置です。

名称：SHIBUYA SKY

フロア：14階（チケットカウンター）、45階・46階（屋内展望施設）、屋上（屋上展望空間）

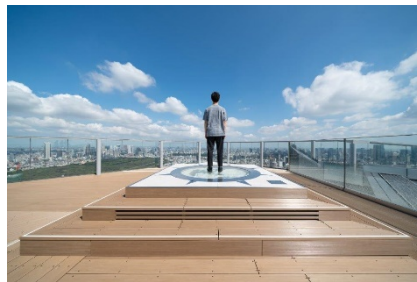
高さ：地上229m

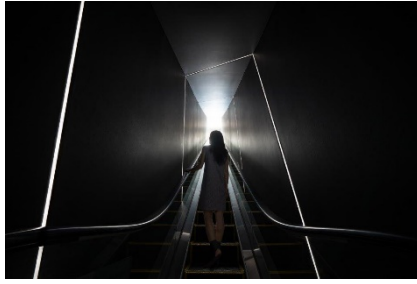
営業面積：屋上展望空間 約2,500㎡、屋内展望施設 約3,000㎡

営業時間：10:00～22:30（最終入場21:20）※最新の営業時間は公式WEBサイトをご確認ください

休館日：元日（※臨時休館日あり）

公式WEBサイト：<https://www.shibuya-scramble-square.com/sky/>





<施設およびチケットに関するお問合せ先>

SHIBUYA SKYお問合せ窓口 TEL：03-4221-0229（受付時間10:00～20:00）

<渋谷スクランブルスクエア 概要>

名称：渋谷スクランブルスクエア／SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE  
事業主体：東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)  
所在：東京都渋谷区渋谷2丁目24番12号  
用途：事務所、店舗、展望施設、駐車場など  
延床面積：第Ⅰ期（東棟）約181,000㎡、第Ⅱ期（中央棟・西棟）約96,000㎡  
階数：第Ⅰ期（東棟）地上47階 地下7階、  
第Ⅱ期（中央棟）地上10階 地下2階、（西棟）地上13階 地下5階  
高さ：第Ⅰ期（東棟）約229.7m、第Ⅱ期（中央棟）約61m、（西棟）約76m  
設計者：渋谷駅周辺整備計画共同企業体  
※(株)日建設計、(株)東急設計コンサルタント、(株)JR東日本建築設計、  
メトロ開発(株)  
デザイン-行外：(株)日建設計、(株)隈研吾建築都市設計事務所、(有)SANAA事務所  
運営会社：渋谷スクランブルスクエア(株)  
※東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)の3社共同出資  
開業：第Ⅰ期（東棟）2019年11月1日  
第Ⅱ期（中央棟・西棟）2027年度（予定）  
URL：<https://www.shibuya-scramble-square.com>



▲渋谷スクランブルスクエア外観

<本件に関する報道関係者さまからのお問合せ先>  
渋谷スクランブルスクエア PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ内）  
担当：岡山（070-3315-4410）、蟹江（080-3438-6047）、土居（090-6653-2270）  
E-mail：scramble\_square\_pr@ssu.co.jp